

第5回東北大学病院 BCP 講演会で総合討論に参加しました (2024/3/8)

テーマ：病院の機能継続、滅菌供給部門、手術部・材料部 BCP
場所：東北大学病院（宮城県仙台市）

2024年3月8日（金）、宮城県仙台市の東北大学病院において第5回東北大学病院BCP講演会が行われ、江川新一教授（災害医療国際協力学分野）、佐々木宏之准教授（同）が第三部の総合討論に参加し、意見交換しました。

東北大学病院 BCP 講演会は、病院職員および関連する病院・施設関係者に BCP の普及啓発を図るため、年に一度開催されています。江川教授、佐々木准教授は、東北大学病院 BCP 策定過程から BCP 委員会委員また事務局メンバーとして東北大学病院 BCP に携わってきました。BCP 講演会についても第1回から企画運営に関わっています。第4回講演会から院内各部署が持ち回りで講演会をマネジメントすることとなり、昨年は検査部、今年は手術部が運営を担当しました。

手術部は病院内で重要な役割を担う部署です。そして手術を行うにあたっては、数・種類ともに多くの手術器具（鋼製小物）、ディスポーザブル器機等が必要になり、その準備を行うのが材料部です。一度使用した鋼製小物、例えば手術に使用するハサミ、把持鉗子（ピンセット）などは、器具に専門知識を有する院内外の職員が、早朝から深夜に渡って高度な品質管理を行いつつ、分解、洗浄、組み立てを行います。この専門職能を有する職員が登院できなくなったら、手術部は機能停止してしまいます。また、感染性をなくすための器具洗浄や高圧蒸気滅菌に、東北大学病院は1日当たり40m³（40トン）の水を要します。これだけでも災害時の手術部機能維持には人的資源、水確保、代替手段考慮が重要になることが理解できます。

当日は、東北大学病院手術部・材料部部長の江島豊教授から病院の現状について講義があり、次に熊本大学病院中央手術部の生田義浩准教授から熊本地震の経験をふまえた手術部・材料部 BCP のあり方に関する特別講演がありました。第三部として、江島教授、生田准教授、材料部師長、そして江川教授、佐々木准教授が加わり、災害時の安全な手術部機能維持について、東日本大震災・熊本地震の経験をふまえた専門的討議が行われました。参加者からは「手術部を支える『材料部』という、表には見えにくいけれども機能維持に欠かせない部署があることを知った」「手術器具の洗浄にたくさんの水を使うことを初めて知った」などの感想が寄せられました。

東北大学病院では、BCP の普及啓発にかかる本講演会を今後も継続していく予定です。



講演会ポスター



第三部総合討論に参加する
江川教授（左から2人目）と佐々木准教授（一番左）

文責：江川新一、佐々木宏之（災害医療国際協力学分野）